
恋文

両投エース

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋文

【Nコード】

N8487A

【作者名】

両投エース

【あらすじ】

ある男が出したラブレターから始まる恋の話。

1章　告白

俺、桜塚康則は幼なじみで同級生の木本紗季に告白することを決意した。

だが度胸がなく、馬鹿な俺は直接はあまりにも怖くて、恋文を出して告白することにしたのだ。

そうと決まったら俺はすぐに休みの日に、紗季の机に恋文を入れて、月曜日にドキドキしながら登校したのだ。

学校が終わると告白をした相手の紗季に呼び出された。

俺は答えが聞けると、喜びながら紗季のところへ向かった。呼び出された所にはまだ、紗季は来ていなかった。俺は

2

「まだ来てないのかよ。自分で呼び出しておいて・・・。」

と少しイラッときたが、答えを聞けると喜んでいる俺はいつもほどではなかった。

するとそこで、紗季がやって来た。俺は気を落ち着かせて立って、紗季の答えを待った。

だが紗季はとんでもないことを言ったのだ。それは

「やつくん。あたし・・・こんな手紙もらったの。」

と・・・。

（俺が差出人と気が付かないのか？）

と思いながらも俺は紗季に

「んで差出人は？」

と聞いてみたのだが紗季は俺に

「それが差出人の名前が書いてないの。」

と言ったのだ。

俺はそれを聞いて

（マ、マジ？しまった。名前書くの忘れるなんて、馬鹿か俺は
ウワァーッ。）

とどんどん自分でも訳が分からない状態になっていった。

俺がそんな状態とも知らず紗季は

「遂にラブレターよ。あたしにも彼氏が。春の予感。」

とかなりの喜びようだった。

だが俺は紗季に

「で、俺にそれを言いたかったただけか？」

となんとか冷静さを取り戻して言った。

すると紗季は俺に

「とにかくこれを誰が出したか、知らないかと思ってさ。立ち話もアレだし、やっくんの家に直行。」

と言って俺を引っ張って行ってしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8487a/>

恋文

2010年10月28日07時43分発行